# 私の小宇宙
## Sweden

絵・文
深井せつ子

## 春が来た

クリスマスを過ぎた頃から、
1日のうち、明るい時間がどんどん
長くなっていき、そして、ようやく
スウェーデンに春がやってくる！
森の樹木は芽吹き、
野の花が風に揺れている。
農家ではヤギや羊などの
新しい命が産ぶ声をあげ、
人々は早朝から夜中まで世話で大忙し。
虫や鳥たちはいっせいに卵をかえし、
子育てにてんてこ舞い。

都会では、レストランが道や広場を
きれいに掃除し、テーブルや椅子を並べる。
港では、ヨットやボートが水辺へ運ばれ、
カバーが外されて航海の準備に入る。
スウェーデンの春は短い。
柳の白い綿毛がフワフワと国中を飛び回ると、
さあ待望の夏が待っている。
だから人々にとって春は、いちばん夢がある。
誰もが待ちに待った季節の到来だ。

Profile
深井せつ子
画家。北欧各国の清涼な風景に魅かれ、北欧行を重ねながら、個展・出版等で作品の発表を続けている。
北欧絵本に『イェータ運河を行く』、『風車がまわった！』、『森はみんなの保育園』、
『スウェーデンの変身する家具』、他の地域の絵本に『一枚の布をぐるぐるぐる』など（全て福音館書店発行）。
［ホームページ］ www.setsukofukai.com

\新刊のお知らせ/
「児童文学の中の家」
深井せつ子 著
2021年４月６日発売
（株）エクスナレッジ

# 私の小宇宙
## Sweden

絵・文
深井せつ子

## 蒸気船がゆく

湖沼が無数にあるスウェーデン。
その湖をゆっくりと運航する交通――それが蒸気船。
ポンポンポンとのどかな音で、
19世紀末建造の木造船が湖をわたっていく。

かつては物資の運搬、人の往来などに
なくてはならない存在だった。
現在は鉄道、トラック、飛行機となんでもある。
それでも、湖では蒸気船がゆく！
シリアン湖でも、ヴェーネン湖でも、小さな湖でも。
”古き良きものは残す“――まさにスウェーデン魂だ。
おかげで私は、ハイウェーを走らなくても、
遠距離にある古都を訪ねることができる。

湖をわたる風はやさしい。湖畔では、
コーヒータイムの家族や、釣りをする人々、
サイクリングのグループなども見える。

蒸気船の旅は、夏だけのおくりもの。

Profile

深井せつ子

画家。北欧各国の清涼な風景に魅かれ、北欧行を重ねながら、個展・出版等で作品の発表を続けている。北欧絵本に『イェータ運河を行く』、『風車がまわった！』、『森はみんなの保育園』、『スウェーデンの変身する家具』、他の地域の絵本に『一枚の布をぐるぐるぐる』など（全て福音館書店発行）。2021年4月に『児童文学の中の家』（エクスナレッジ）を刊行。［ホームページ］ www.setsukofukai.com

# 私の小宇宙
## Sweden

絵・文
深井せつ子

## 夏の終わりは

たくさん太陽を浴びてゆったり過ごした
「夏の家」から去る時期になった。
家の外側を見ると、傷んだところがいくつもある。
なにしろ、古い家だ。
母親のおじいさんが建てた家だという。
まずはペンキ塗り。
道具は揃っているが、新しい塗料を買ってきた。
ルフトヒュース（あずまや）の水色を重ね塗りする。
母屋の煙突のレンガも歪んできた。
見た目は素敵だけれど、冬の雪に耐えるよう、
レンガをしっかり積み直す。
それから、窓枠も外枠の傷んだ箇所は直したい。
それからそれから…。
白夜の季節も最後は忙しい。
でも、すべては《来年のため》。
また、素敵な夏を過ごせますように。

Profile
深井せつ子
画家。北欧各国の清涼な風景に魅かれ、北欧行を重ねながら、個展・出版等で作品の発表を続けている。北欧絵本に『イェータ運河を行く』、『風車がまわった！』、『森はみんなの保育園』、『スウェーデンの変身する家具』、他の地域の絵本に『一枚の布をぐるぐるぐる』など（全て福音館書店発行）。2021年4月に『児童文学の中の家』（エクスナレッジ）を刊行。［ホームページ］ www.setsukofukai.com

# 私の小宇宙
## Sweden

絵・文
深井せつ子

## クラシック家具が好き

スウェーデンの古都の街には必ず骨董店がある。
店内に入ると昔のグラスからアクセサリー、
椅子、テーブル、タンスと所狭しと置かれている。
民具に近い昔の家具が特に面白い。
貴族に納めたソレと違い、どことなく歪んでいたり、
手書き模様が左右対称でないとか、
そういう抜けがとても愛しい。
飾り棚で小型のものは、たいてい酒棚だ。
部屋の隅に飾られ、どれも伝統的な
民族模様があしらわれて魅力的。
衣装箱は昔の日本の長持にあたると思う。
布地や衣服がぎっしりと入っていたと言う。
この国は鉄などの地下資源が支えてきたから、
鉄や銀を使った大きなキャンドル立てもよく見かける。
片手で持つにはかなりの重さだが、
7本のろうそくが灯ると、幻想的な雰囲気が楽しめる。
骨董店は時間を忘れる迷宮世界。

Profile

深井せつ子

画家。北欧各国の清涼な風景に魅かれ、北欧行を重ねながら、個展・出版等で作品の発表を続けている。北欧絵本に『イェータ運河を行く』、『風車がまわった！』、『森はみんなの保育園』、『スウェーデンの変身する家具』、他の地域の絵本に『一枚の布をぐるぐるぐる』など（全て福音館書店発行）。2021年4月に『児童文学の中の家』（エクスナレッジ）を刊行。［ホームページ］ www.setsukofukai.com